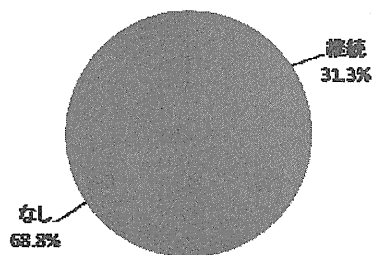
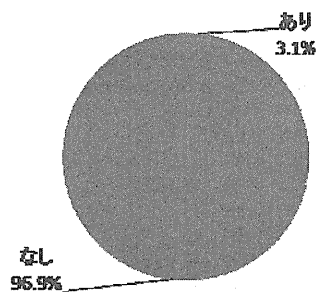


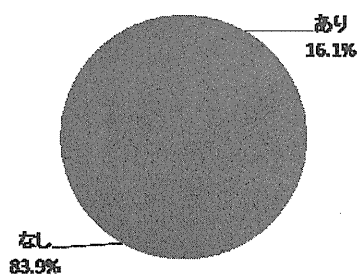
訪問看護の利用



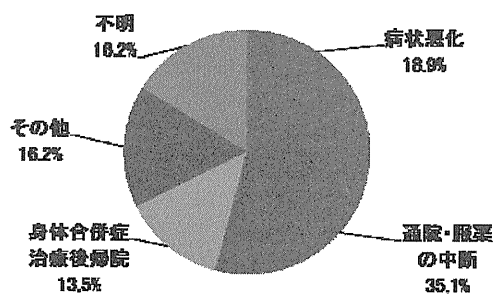
各種居住サービスの利用



その他自立支援サービスの利用



再入院に至った原因



厚生労働科学研究費補助金（障害者対策総合研究事業）
「精神保健医療福祉体系の改革に関する研究」
分担研究報告書
国内外の精神科医療における疾病分類に関する研究

研究分担者 丸田 敏雅（東京医科大学精神医学講座）
研究協力者 松本 ちひろ（東京医科大学精神医学講座）

研究要旨：

【目的】本研究の目的は 1. WHO 本部からの情報収集および調整、2. 我が国で期待される診断分類やプライマリケアにおける診断分類の作成に関する研究である。

【方法】1. WHO 本部からの情報収集および調整については、WHO が開催している「ICD-10 精神および行動の障害のための国際アドバイザリー・グループ(International Advisory Group for the Revision of ICD-10 Mental and Behavioral Disorders)（以下 AG とする）」や学会シンポジウムへの参加、2. 我が国で期待される診断分類やプライマリケアにおける診断分類の作成に関する研究では電子診断補助システム（Electronic Diagnostic Assistance System; EDCAS）の開発である。

【結果】平成 24 年 3 月 8、9 日に WHO 本部で開催された AG および平成 24 年 3 月 3 日～6 日に開催された第 20 回欧州精神医学会において WHO 主催の ICD-11 関連シンポジウム (Developing the ICD-11 classification of mental and behavioural disorders: Progress and prospects) に参加した。また、上記のタブレット端末用の EDCAS-P を開発した。

【考察】ICD は我が国の日常臨床および行政および司法業務に不可欠の分類である。このため ICD の改訂は我が国のこれらの現場に大きな影響を及ぼす。本年度は研究課題について十分な成果が得られたと考える。

【結語】ICD-11 は平成 27 年に発刊予定である。今後も ICD-11 に関する最新の情報を把握し、ICD-11 が我が国の日常臨床および行政および司法業務にスムーズに導入されるよう研究を行う予定である。

A. 研究目的

本研究の目的以下の大きく 2 つに分かれる。

1. WHO 本部からの情報収集および調整、2. 我が国で期待される診断分類やプライマリケアにおける診断分類の作成に関する研究である。

これらにより、現在作成中の ICD-11 が我が国の臨床および行政での適用により使いやすいう我が国の意見を ICD-11 に反映させることである。

B. 研究方法

1. WHO 本部からの情報収集および調整

ICD-11 の精神部門の分野別専門委員会 (Topical Advisory Group: TAG) は、「ICD-10 精神および行動の障害のための国際アドバイ

ザリー・グループ(International Advisory Group for the Revision of ICD-10 Mental and Behavioral Disorders)」(以下 AG とする) と命名され、2007 年以降 1 年に 1～2 回開催されている。本年度は平成 24 年 3 月 8、9 日に WHO 本部で開催された。今回の会議では、現行の F1～F9 までである 10 の大枠をどうするのかや各障害群別のワーキンググループが作成した分類について討議がなされた。

ICD-11 の β 草案は 2012 年 5 月に web 上に公開され、その後フィールドトライアルが行われる予定である。

また、それに先立つ平成 24 年 3 月 3 日～6 日に開催された第 20 回欧州精神医学会において WHO 主催の ICD-11 関連シンポジウム

(Developing the ICD-11 classification of mental and behavioural disorders: Progress and prospects) が開催され ICD-11 の情報収集の目的で参加した。

2. 我が国で期待される診断分類やプライマリケアにおける診断分類の作成に関する研究
平成 20 年～22 年度に行われた「国内外の精神科医療における疾病分類に関する研究」で作成された電子診断補助システム(Electronic Diagnostic Assistance System; EDCAS) をより日常臨床の場で用いられやすいようタブレット端末のアプリケーションを開発した。

(倫理面への配慮)

本研究では特に倫理的な配慮を要する事案は含まれていない。

C. 研究結果

1. WHO 本部からの情報収集および調整

ICD-11「精神および行動の障害」では、現在の F0～F9 の 10 の章立てが取り崩され、18～20 の章立てになると提案されている。

例えば、現在 F3「気分(感情)障害」に分類されている「双極性障害」と「うつ病性障害」や、F4「神経症性障害、ストレス関連障害および身体表現性障害」に分類されている「不安障害」、「強迫性障害」、「トラウマおよびストレス関連障害」および「解離性障害」も個別の章が与えられる予定である。

また、個々の障害は各ワーキンググループが中心になり Content Form と呼ばれるフォーマットが作成中である。この Content Form は、I.名称、II.ICD-10 との関連、III.プライマリな“親”カテゴリー、IV.2 番目の“親”カテゴリー、V.“子供”および構成するカテゴリー、VI.同義語、VII.定義、VIII.診断ガイドライン、IX.機能的特質、X.時間限定要因、XI.重症度関連要因、XII.鑑別診断、XIII.正常からの相違、XIV.発達の表現、XV.経過、XVI.関連病像および comorbidity、XVII.文化関連病像、XVIII.性差関連病像、XIX.評価に関する問題の 19 の要素から構成されている。

上述したように、ICD-11 のβ草案は 2012 年 5 月に web 上にて公開される予定であり、詳細については web を参照できる予定である。また、その後フィールドトライアルも行われる予定である。

2. 我が国で期待される診断分類やプライマリケアにおける診断分類の作成に関する研究
上記の電子診断補助システム (Electronic Diagnostic Assistance System; EDCAS) のタブレット端末用 (EDCAS-P) を開発した。コンピュータ端末版に比較して、よりコンパクトなり、日常臨床業務に汎用されるものと思われる。

次年度は、この EDCAS-P の主にプライマリケアの場での信頼性および妥当性検討を行う予定である。

D. 考察

ICD は我が国の日常臨床および行政および司法業務に不可欠の分類である。このため ICD の改訂は我が国のこれらの現場に大きな影響を及ぼす。本年度は研究課題について十分な成果が得られたと考える。

ICD-11 に関する情報を今後もより早く把握するために本研究の役割は大きいと思われる。

E. 結論

ICD-11 は平成 27 年に発刊予定である。今後も ICD-11 に関する最新の情報を把握し、ICD-11 が我が国の日常臨床および行政および司法業務にスムーズに導入されるよう研究を行う予定である。

F. 健康危険情報 なし

G. 研究発表

1. 論文発表

- 1) Maruta T, Matsumoto C, Iimori M: The ICD-10 in the diagnosis and classification of mental disorders in Japan and other Asian countries. *European Psychiatry, Special*

Issue No.2, 2011, 20 - 24.

- 2) Maruta T, Kato M, Matsumoto C, Iimori M: Unsolved problems concerning somatoform disorders and post traumatic disorder, European Psychiatry, Special Issue No.2, 2011, 79 - 83.
2. 学会発表
- 1) Maruta T, Wolfgang Gaebel, W, Shinfuku, N, Matsumoto, C: Experts' opinions on renaming schizophrenia: a global survey. World Congress of Psychiatry, In Buenos Aires
- 2) Maruta T, Matsumoto C, Iimori M : Recent mental health problems in Japanese working place: Over working time and Suicide. World Congress of Psychiatry, In Buenos Aires
- 3) Maruta T, Sato M: The New Concept of Schizophrenia Accompanying "Renaming of Schizophrenia". World Congress of Psychiatry, In Buenos Aires
- 4) Maruta T, Matsumoto C: Japanese perspective on the revision of the ICD. World Congress of Psychiatry, In Buenos Aires
- 5) Maruta T, Matsumoto C, Iimori M: Global survey of renaming schizophrenia, 20th European Congress of Psychiatry (6th, March, 2012), In Prague.
- 6) Matsumoto C, Maruta T,: The Japanese perspectives for the ICD-11, 20th European Congress of Psychiatry (5th, March, 2012), In Prague.

H. 知的財産権の出願・登録状況(予定を含む。)

1. 特許取得 なし
2. 実用新案登録 なし
3. その他 なし

III. 研究班名簿

平成 21 年度
「精神保健医療福祉体系の改革に関する研究」
研究班名簿

研究代表者	竹島 正	国立精神・神経センター精神保健研究所
研究分担者	立森 久照	国立精神・神経センター精神保健研究所
	大塚 俊弘	長崎県長崎こども・女性・障害者支援センター
	山下 俊幸	京都市こころの健康増進センター
	安西 信雄	国立精神・神経センター病院
	萱間 真美	聖路加看護大学
	白石 弘巳	東洋大学ライフデザイン学部
	長尾 卓夫	高岡病院
	研究協力者	浅井 邦彦
東 司		小阪病院
有海 清彦		山形県精神保健福祉センター
石元 康仁		徳島県精神保健福祉センター
伊藤 千尋		法政大学現代福祉学部
稲垣 正俊		国立精神・神経センター精神保健研究所
大熊 恵子		聖路加看護大学
岡崎 伸郎		小高赤坂病院
岡部 英男		神奈川県厚木保健福祉事務所 全国保健所長会
川崎 洋子		全国精神保健福祉会連合会「みんなねっと」
川関 和俊		都立中部総合精神保健福祉センター
川野 健治		国立精神・神経センター精神保健研究所
北端 裕司		和歌山県精神保健福祉センター
黒川 正興		聖路加看護大学
小泉 典章		長野県精神保健福祉センター ／全国精神保健福祉センター長会
河野 稔明		国立精神・神経センター精神保健研究所
小島 卓也		大宮厚生病院
小山明日香		国立精神・神経センター精神保健研究所
佐々木絢子		桜美林大学健康福祉学群
佐藤 光正		駒澤大学文学部

清野 絵 国立精神・神経センター病院
瀬戸屋 希 聖路加看護大学
高橋 祥友 防衛医科大学校防衛医学研究センター
田上美千佳 東京都精神医学総合研究所
角田 秋 聖路加看護大学
中島 豊爾 岡山県精神科医療センター
長沼 洋一 国立精神・神経センター精神保健研究所
永野貫太郎 第二東京弁護士会
西浦 研志 福岡市精神保健福祉センター
二宮 貴至 浜松市精神保健福祉センター
林 亜希子 名古屋大学大学院
樋口 輝彦 国立精神・神経センター
平田 豊明 静岡県立こころの医療センター
廣川 聖子 国立精神・神経センター精神保健研究所
／聖路加看護大学大学院
広瀬 徹也 晴和病院
福島 昇 新潟市こころの健康センター
真壁 博美 全国精神保健福祉会連合会「みんなねっと」
松原 三郎 松原病院
松村 英幸 根岸病院
松本 俊彦 国立精神・神経センター精神保健研究所
三木恵美子 横浜法律事務所
八尋 光秀 西新共同法律事務所
若林ちひろ 東洋大学ライフデザイン学部

(50 音順)

平成 22 年度
「精神保健医療福祉体系の改革に関する研究」
研究班名簿

研究代表者	竹島 正	(独)国立精神・神経医療研究センター精神保健研究所
研究分担者	立森 久照	(独)国立精神・神経医療研究センター精神保健研究所
	大塚 俊弘	長崎県長崎こども・女性・障害者支援センター
	山下 俊幸	京都市こころの健康増進センター
	安西 信雄	(独)国立精神・神経医療研究センター病院
	萱間 真美	聖路加看護大学
	白石 弘巳	東洋大学ライフデザイン学部
	長尾 卓夫	高岡病院
	研究協力者	浅井 邦彦
東 司		小阪病院
有海 清彦		山形県精神保健福祉センター
池淵 恵美		帝京大学
石元 康仁		徳島県精神保健福祉センター
伊藤 千尋		法政大学現代福祉学部
稲垣 正俊		(独)国立精神・神経医療研究センター精神保健研究所
稲沢 公一		法政大学現代福祉学部
大熊 恵子		聖路加看護大学
岡崎 伸郎		小高赤坂病院
岡部 英男		神奈川県厚木保健福祉事務所 全国保健所長会
檜本 修		宮城県リハビリテーション支援センター
片岡 博喜		愛知県西三河児童・障害者相談センター
上小鶴正弘		埼玉県総合リハビリテーションセンター
川崎 洋子		全国精神保健福祉会連合会「みんなねっと」
川関 和俊		都立中部総合精神保健福祉センター
川野 健治		(独)国立精神・神経医療研究センター精神保健研究所
北端 裕司		国保日高総合病院
黒田 安計		さいたま市こころの健康センター
小泉 典章		長野県精神保健福祉センター
河野 稔明		(独)国立精神・神経医療研究センター精神保健研究所
小山明日香		(独)国立精神・神経医療研究センター精神保健研究所

坂田 増弘 (独)国立精神・神経医療研究センター病院
佐藤 光正 駒澤大学文学部
白川 教人 横浜市こころの健康相談センター
瀬戸屋 希 聖路加看護大学
田上美千佳 東京都精神医学総合研究所
趙 香花 (独)国立精神・神経医療研究センター精神保健研究所
角田 秋 聖路加看護大学
永岡 秀之 島根県立心と体の相談センター
中島 豊爾 岡山県精神科医療センター
長沼 葉月 首都大学東京
長沼 洋一 (独)国立精神・神経医療研究センター精神保健研究所
永野貫太郎 第二東京弁護士会
中村江美子 井之頭病院
西浦 研志 福岡市精神保健福祉センター
二宮 貴至 浜松市精神保健福祉センター
野口 正行 岡山県精神保健福祉センター
林 亜希子 覚王山メンタルクリニック
樋口 輝彦 (独)国立精神・神経医療研究センター
平田 豊明 静岡県立こころの医療センター
平林 直次 (独)国立精神・神経医療研究センター病院
廣川 聖子 (独)国立精神・神経医療研究センター精神保健研究所
／聖路加看護大学大学院
福島 昇 新潟市こころの健康センター
堀井 茂男 岡山県精神科病院協会／慈圭病院
真壁 博美 全国精神保健福祉会連合会「みんなねっと」
正岡 悟 大阪府障がい者自立相談支援センター
松原 三郎 松原病院
松村 英幸 根岸病院
松本 俊彦 (独)国立精神・神経医療研究センター精神保健研究所
三木恵美子 横浜法律事務所
三木 良子 東洋大学ライフデザイン学部
森川 将行 堺市こころの健康センター
八尋 光秀 西新共同法律事務所
若林ちひろ 清和短期大学部

平成 23 年度
「精神保健医療福祉体系の改革に関する研究」
研究班名簿

研究代表者	竹島 正	(独)国立精神・神経医療研究センター精神保健研究所
研究分担者	立森 久照	(独)国立精神・神経医療研究センター精神保健研究所
	大塚 俊弘	長崎県長崎こども・女性・障害者支援センター
	山下 俊幸	京都府立洛南病院
	安西 信雄	(独)国立精神・神経医療研究センター病院
	萱間 真美	聖路加看護大学
	白石 弘巳	東洋大学ライフデザイン学部
	河崎 建人	水間病院
	丸田 敏雅	東京医科大学精神医学講座
	研究協力者	赤澤 正人
浅井 邦彦		浅井病院
東 司		小阪病院
有海 清彦		山形県精神保健福祉センター
池淵 恵美		帝京大学
石元 康仁		徳島県精神保健福祉センター
伊藤 千尋		法政大学現代福祉学部
稲沢 公一		法政大学現代福祉学部
大熊 恵子		聖路加看護大学大学院博士課程
太田順一郎		岡山市こころの健康センター
大橋 明子		聖路加看護大学
岡崎 伸郎		仙台医療センター
岡部 英男		神奈川県衛生研究所／茅ヶ崎保健福祉事務所 ／全国保健所長会
織田 信生		アーティスト
小野さや香		アーティスト
樫本 修		宮城県リハビリテーション支援センター
片岡 博喜		愛知県師勝保健所
上小鶴正弘		(独)国立印刷局東京病院
川崎 洋子		全国精神保健福祉会連合会「みんなねっと」
川関 和俊		東京都立中部総合精神保健福祉センター

北端 裕司 国保日高総合病院
吉川 武彦 全国精神保健福祉連絡協議会
黒田 安計 さいたま市こころの健康センター
小泉 典章 長野県精神保健福祉センター
河野 稔明 (独)国立精神・神経医療研究センター精神保健研究所
鴻巣 泰治 埼玉県立精神保健福祉センター
小山明日香 熊本大学大学院生命科学研究部脳機能病態学分野
坂田 増弘 (独)国立精神・神経医療研究センター病院
佐藤 光正 駒澤大学文学部
四方田 清 順天堂大学
白川 教人 横浜市こころの健康相談センター
高橋 祥友 防衛医科大学校防衛医学研究センター
田辺 等 北海道立精神保健福祉センター
田上美千佳 東京都精神医学総合研究所
趙 香花 (独)国立精神・神経医療研究センター精神保健研究所
角田 秋 聖路加看護大学
永岡 秀之 島根県立心と体の相談センター
中島 豊爾 岡山県精神科医療センター
長沼 葉月 首都大学東京
長沼 洋一 (独)国立精神・神経医療研究センター精神保健研究所
永野貫太郎 第二東京弁護士会
中村江美子 井之頭病院
西浦 研志 医療法人社団宗仁会奥村日田病院
二宮 貴至 浜松市精神保健福祉センター
野口 正行 岡山県精神保健福祉センター
林 亜希子 覚王山メンタルクリニック
樋口 輝彦 (独)国立精神・神経医療研究センター
平田 豊明 静岡県立こころの医療センター
平林 直次 (独)国立精神・神経医療研究センター病院
廣川 聖子 (独)国立精神・神経医療研究センター精神保健研究所
／聖路加看護大学大学院博士課程
福島 昇 新潟市こころの健康センター
藤田 健三 岡山県精神保健福祉センター
堀井 茂男 岡山県精神科病院協会／慈圭病院
真壁 博美 全国精神保健福祉会連合会「みんなねっと」
正岡 悟 大阪府障がい者自立相談支援センター

松原 三郎 松原病院
松村 英幸 根岸病院
松本ちひろ 東京医科大学精神医学講座
松本 俊彦 (独)国立精神・神経医療研究センター精神保健研究所
三木恵美子 横浜弁護士会
三木 良子 東洋大学ライフデザイン学部
光石 忠敬 第二東京弁護士会
森川 将行 堺市こころの健康センター
八尋 光秀 福岡県弁護士会
山内 貴史 (独)国立精神・神経医療研究センター精神保健研究所
山口 光雄 全国精神障害者団体連合会「ぜんせいれん」
吉澤 雅子 東京弁護士会
若林ちひろ 清和大学短期大学部

(50 音順)

厚生労働科学研究費補助金（障害者対策総合研究事業）

「精神保健医療福祉体系の改革に関する研究」
平成 21 年度～23 年度 総合研究報告書

発行日 平成 24（2012）年 3 月
発行者 「精神保健医療福祉体系の改革に関する研究」
研究代表者 竹島 正
発行所 独立行政法人 国立精神・神経医療研究センター 精神保健研究所
〒187-8553 東京都小平市小川東町 4-1-1
TEL：042-341-2712(6209) FAX：042-346-1950

かえる
かわる

精神保健医療福祉の
改革ビジョン研究ページ

www.ncnp.go.jp/nimh/keikaku/vision/index.html

201122010B (別冊)

厚生労働科学研究費補助金 障害者対策総合研究事業

**精神保健医療福祉体系の
改革に関する研究**

平成21年度～23年度 総合研究報告書 2/2

研究代表者 **竹島 正**
平成24 (2012) 年3月

厚生労働科学研究費補助金

障害者対策総合研究事業

精神保健医療福祉体系の改革に関する研究

平成 21 年度～23 年度 総合研究報告書 2/2

研究代表者 竹島 正

平成 24 (2012) 年 3 月

目 次

IV. 研究成果の刊行に関する一覧表

V. 研究成果の刊行物・別刷

VI. 資料

精神保健福祉資料 平成 19 年度 6 月 30 日調査の概要

平成 20 年度 6 月 30 日調査の概要

平成 21 年度 6 月 30 日調査の概要

目でみる 精神保健医療福祉 4

目でみる 精神保健医療福祉 5

目でみる 精神保健医療福祉 6

IV. 研究成果の刊行に関する一覧表

研究成果の刊行に関する一覧表

書籍

著者氏名	論文タイトル名	書籍全体の編集者名	書 籍 名	出版社名	出版地	出版年	ページ
松原三郎	精神科医療と国民経済	精神保健福祉白書編集委員会	精神保健福祉白書 2011年版	中央法規	東京	2010	144
安西信雄	退院支援ガイドライン活用の目的	井上新平, 安西信雄, 池淵恵美	精神科退院支援ハンドブック - ガイドラインと実践的アプローチ	医学書院	東京	2011	2-6
安西信雄	21 社会的な治療, 社会復帰を援助する治療 A. 代表的なアプローチ 3. 社会生活技能訓練 (SST)	山内俊雄, 小島卓也, 倉知正佳, 鹿島晴雄	専門医をめざす人の精神医学 第3版	医学書院	東京	2011	737-740
安西信雄	第4章 障害の概要 第10節 精神障害	山内俊雄, 小島卓也, 倉知正佳, 鹿島晴雄	新・社会福祉養成講座 1 人体の構造と機能及び疾病 第2版 医学一般	中央法規出版	東京	2011	158-162
安西信雄	15章 非薬物療法、心理社会療法 Key word 244 社会生活技能訓練 social skills trainig (SST)	松下正明	精神医学キーワード事典	中山書店	東京	2011	678-680
安西信雄	精神科リハビリテーション	武田雅俊、鹿島晴雄	POCKET 精神科	金芳堂	京都	2010	343-349
清野絵、水野雅文、安西信雄	イタリアにおける精神科医療改革	松原三郎、佐々木一	世界における精神科医療改革 (専門医のための精神科臨床リュミエール 22 巻)	中山書店	東京	2010	105-117
松原三郎	精神保健福祉法一法に基づいた入院手続きと処遇	山内俊雄	精神科専門医のためのプラクティカル精神医学	中山書店	東京	2009	622-633
松原三郎	精神科医療と国民経済	精神保健福祉白書編集委員会	精神保健福祉白書	中央法規	東京	2009	134

雑誌

発表者氏名	論文タイトル名	発表誌名	巻号	ページ	出版年
竹島 正, 宇田英典, 眞崎直子	地域のメンタルヘルスの問題はどのように変わっているのですか?	公衆衛生	75(4)	321-325	2011
竹島 正	障害者自立支援法－制度改正の視点－	臨床精神医学	40(5)	553-557	2011
河野稔明, 竹島正	精神科病院における行動制限の状況とその背景	心と社会	42(1)	68-76	2011
眞崎直子, 的場由木, 竹島 正	活動の始まる頃 高知県駐在保健婦の活動からみる精神保健活動	こころの健康	26(1)	47-50	2011
瀬戸秀文, 島田達洋, 入野康, 山本智一, 小泉典章, 吉住 昭, 竹島正, 尾島俊之, 野田龍也, 山下俊幸, 小高 晃	医療観察法入院処遇前における精神保健福祉法入院の現状	臨床精神医学	40(11)	1495-1505	2011
小山明日香, 長沼洋一, 沢村香苗, 立森久照, 大島巖, 竹島 正	精神障害を有する人に対する一般地域住民のイメージ	日本社会精神医学会雑誌	20(2)	116-127	2011
安西信雄	希望とリカバリー－精神科医療におけるその役割	精神医学	54 (1)	4-5	2012
安西信雄, 伊藤淳子	【安全・安心の精神科臨床サービス：どこでも役立つリスク軽減の方法と実践】(第1章) 総論 精神科臨床サービスにおける安全・安心とは? 安全・安心の精神科臨床サービス 基本的な考え方と技術(解説/特集)	精神科臨床サービス	11 (3)	308-312	2011
白石弘巳	精神障害者家族とその支援	精神保健福祉	Vol43, no. 1 (通巻87号)	4-8	2012
白石弘巳	精神保健福祉における家族支援の方向性	精神障害とリハビリテーション	第15(2)号	141-147	2011